

乳腺外科

部長 杉本 健樹

診療体制

乳腺外科は 2024 年 4 月に部長杉本健樹と柳川信子の 2 名の乳腺（外科）専門医が乳癌看護認定看護師の藤原キミ師長と共に高知大学医学部附属病院から移動して新たなスタートを切りました。常勤医は 2 名体制ですが、乳癌の診断から放射線治療を除くすべての治療に対応するために、院外から週 1 回のペースで乳房画像ガイド下針生検の支援に船越拓（いずみの病院）手術支援に松本有紀子（仁淀病院）、緩和ケア診療に小河真帆（函南病院）の 3 名が定期的に診療応援に来ています。また、認定遺伝カウンセラー田代真理（高知大学医学部附属病院）が隔週で遺伝カウンセリングを行っています。

患者さんの多様なニーズに答えるために多職種チーム医療で対応しています。具体的には週 1 回の多職種カンファレンスを行い情報共有し、薬物の副作用対策に関しては医師の説明後に薬剤師外来での補足説明、化学療法中の脱毛予防のための頭皮冷却、末梢神経障害予防のための 2 重手袋やアピアランスケアは乳腺センターおよび化学療法センターの看護師が中心となって行っています。

診療実績

乳腺外科・乳腺センターが開設されてから 2024 年 12 月までの 9 か月間の診療実績を紹介します。

通常のマammographyや超音波検査に加えて、画像ガイド下針生検を 86 件施行しています。また、6 月から遺伝カウンセリング加算の施設要件を満たし遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）診断のための BRCA 遺伝学的検査を 23 人が受検し、ホルモン受容体陽性 HER2 陰性乳癌の化学療法の要否決定のための 21 遺伝子発現解析（オンコタイプ DX®）も 23 件施行しています。

化学療法室を利用した外来化学療法の総件数は 472 件（2023 年は 43 件）で、抗がん剤に加え抗 HER2 抗体や免疫チェックポイント阻害剤を中心とした分子標的薬や抗体－薬剤複合体を用いた治療も増加しています。

外来では通常ホルモン療法に加え CDK4/6 阻害剤（パルボシクリブ、アベマシクリブ）や mTOR 阻害剤（エベロリムス）の併用、再発高リスクの HBOC 乳癌患者に対する PARP 阻害剤（オラパリブ）の投与、S-1、カペシタビンなどの経口抗がん剤による化学療法も行っています。

乳腺手術は 9 か月間で 81 件、原発乳癌の手術は 75 乳房（74 人で同時性両側乳癌が 1 人）でした。

内訳は乳房全切除	48 件	（内 2 例が乳頭温存皮下乳腺全摘術）
	1 次 2 期再建（ティッシュエクspander挿入）	5 例
乳房部分切除	27 件	
併施された腋窩手術	センチネルリンパ節生検	62 件
	腋窩リンパ節郭清	12 件
その他	良性乳腺疾患	3 件
	再発乳癌	4 件

乳房再建は当院の形成外科および高知大学医学部附属病院の田中宏史郎医師の協力を得て行っています。形成外科単独で行う 2 期手術（ティッシュエクspanderからシリコンインプラントの入れ替え）も開始されています。

温存乳房への照射や再発高リスクの乳房全切除後の胸壁＋鎖骨上領域照射および骨転移など

への緩和照射など放射線治療については患者さんの通院の利便性を考慮して放射線治療施設を持つ高知大学医学部附属病院、高知医療センター、高知赤十字病院、国立病院機構高知病院のなかから選択して直接紹介する、もしくは水曜日の放射線治療外来でコーディネートしていただき実施施設に紹介することで対応しています。

教育・研修について

高知県内で最も多彩な乳癌診療に対応できる施設として乳腺外科医の育成できる環境を早急に整える必要があります。2024年度は柳川が高知大学医学部附属病院での研修の延長として乳腺外科専門医を取得することが出来ましたが、一方で前年度までの実績が不十分のため当院が機構の定める研修施設でないことから杉本が指導医の資格を維持できませんでした。また、乳癌学会の認定施設が取得が2026年に、乳腺外科医取得ための研修できる連携施設になるのが2027年の予定です。その後は乳腺外科を目指す外科専攻医の研修を積極的に受け入れていきたいと考えています。

今後の課題

2025年度は途中から常勤医一人体制になる時期があり、また2025年11月28-29日で第35回日本乳癌検診学会学術集会を高知で開催するため、診療の質を担保するために院内外から多くの人的支援を受ける必要が生じます。
その後は、可能な限り早い段階で乳腺外科専攻医を受け入れる体制を整備して人材育成と人材の確保を行っていく予定です。

学術発表・講演会等

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
乳房温存療法後に生じた放射線関連 乳房血管肉腫の1例	柳川 信子、杉本 健樹、松 本 有紀子、沖 豊和	第32回日本乳癌学会学術総 会	7月11日～ 13日 仙台
当院における頭皮冷却装置 運用へ の取り組み	藤原キミ、 福永有紀子、柳川信子、沖豊 和、杉本健樹	第32回日本乳癌学会学術総 会	7月11日～ 13日 仙台

講演

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
乳癌治療の今	杉本 健樹	近森病院県民公開講座	6月2日 高知
乳腺外科医の立場から見た HBOC について	杉本 健樹、 柳川 信子、田代 真理、沖 豊和	第32回日本乳癌学会学術総 会	7月11日～ 13日 仙台

論文発表・著書

タイトル	執筆者 共同執筆者	掲載誌 出版社	巻・号 ページ
術前化学療法で病理学的完全奏功を 得たが早期に再発し予後不良であっ たトリプルネガティブ乳癌の1例	柳川 信子 杉本 健樹、沖 豊和、福永 有紀子、小川 真帆、瀬尾 智	癌と化学療法 Vol. 51 (2024) 株式会社癌と化学療法社	Vol.51 No.12 Pp.1251-12

			54